



第六八期 初任教育入校式

八〇名が新たな一歩を踏み出す

秋田県消防学校

題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail: task@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二十六年全国統一防火標語
もういいかい
火を消すまでは
まあだだよ

る能力を養成することになります。今年度も女性消防士三名が入校し、これで七年連続の二六名となりました。

由利本荘市消防本部に採用された仙北屋菜奈消防士は「地域の人に身近な存在と思ってもらえる消防士を目指して頑張りたい」と抱負を語りました。

校長式辞(要約)

消防士として、新たな一歩を踏み出しました皆様のご入校を、教職員一同で歓迎いたします。

さて、先の東日本大震災で国民皆が目にしたように、近年の災害は、多様化、複合化、大規模化してきております。どのような状況下であろうとも、消防の任務は、住民の生命や身体、財産を守り、安全を確保することに尽きます。

それだけに、消防に対する住民の期待は実に大きく、消防職員には、火災や救急に止まらず、各種の自然災害、大規模災害等への迅速で的確な対応が求められております。

ここでの教育訓練においては、危険回避や注意喚起のために、教官が厳しく指導する場面は必ずあります。学生諸君、どうか入校期間中は、怯むことなく強い信念を持って、必要な知識や技術の修得に全力で臨んでください。

入校生宣誓(全文)

私は、初任教育第六八期学生として、入校の意義と消防の責務を自覚し、校則を守り、和を尊び、規律ある学校生活を通じて、勉学研修に励み、消防職員として地域住民の信頼に値する人格陶冶につとめることを誓います。

平成二六年四月一日

湖東地区行政一部
事務組合消防本部
消防士 前川 海斗

中村校長



入校生宣誓

初任教育第68期 入校生名簿

【1組】

秋田市消防本部

松 嶋 宏 知 河 本 優 也
佐々木 茉 央 齊 藤 裕 之
佐 藤 泰 良

大館市消防本部

花 田 望 舛 屋 雄

北秋田市消防本部

浅 野 喜 孝 福 岡 滉 司

由利本荘市消防本部

仙北屋 菜 奈 五十嵐 琢 磨
横 田 崇 命
高 橋 悠 太 小 野 寛 人
小 松 健 人

にかほ市消防本部

菅 原 裕

横手市消防本部

岡 本 卓 磨 高 橋 洸 佑
竹 村 奏 高 橋 聖 哉
畠 山 慧 輔

五城目町消防本部

近 藤 哲 矢

鹿角広域行政組合消防本部

小 舘 拓

能代山本広域市町村圏組合消防本部

鈴 木 裕 也 小 川 稜 二
小 野 友 誠 藤 原 和 朋

湖東地区行政一部事務組合消防本部

鈴 木 吏

大曲仙北広域市町村圏組合消防本部

鈴 木 芳 也 藤 井 陽 介
齊 藤 健 太 加 藤 剣 也
齊 藤 大 雅 伊 藤 大 毅
細 井 望 夢

湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部

矢 野 優 斗 加 藤 昂 也
藤 田 大 貴 齊 藤 大 暉

【2組】

秋田市消防本部

齊 藤 和 船 木 浩 太
中 川 紘 志 菊 地 勝 太
佐 藤 佑 星

大館市消防本部

千 葉 優

北秋田市消防本部

長 野 真 也 野 呂 俊 樹

由利本荘市消防本部

堀 幸 助 小 松 真 文
高 橋 皓 佑 小 杉 時 生
長谷部 諒 三 浦 大 介
佐々木 凌

にかほ市消防本部

須 田 雄 也 兼 松 翔

横手市消防本部

赤 川 弘 晃 赤 川 雄 飛
柿 崎 知 磨 伊 藤 亜 希 良

五城目町消防本部

伊 藤 駿

鹿角広域行政組合消防本部

板 橋 健 太 郎

能代山本広域市町村圏組合消防本部

吉 岡 優 澤 田 石 貴 彦
宮 田 昂 弥 藤 田 拓 翔

湖東地区行政一部事務組合消防本部

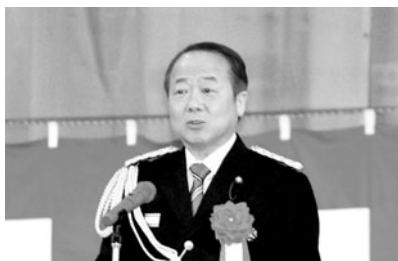
前 川 海 斗 加 賀 屋 恵 介

大曲仙北広域市町村圏組合消防本部

高 橋 克 成 藤 田 茂 伸
菅 朋 冬 判 田 将
高 橋 翔 太 千 葉 将 太

湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部

六 鎗 魁 星 高 橋 信 望 実
遠 藤 大 敏 阿 部 周 平
鈴 木 直 人



中田消防協会会長



小林消防長会長

秋田県消防学校職員名簿

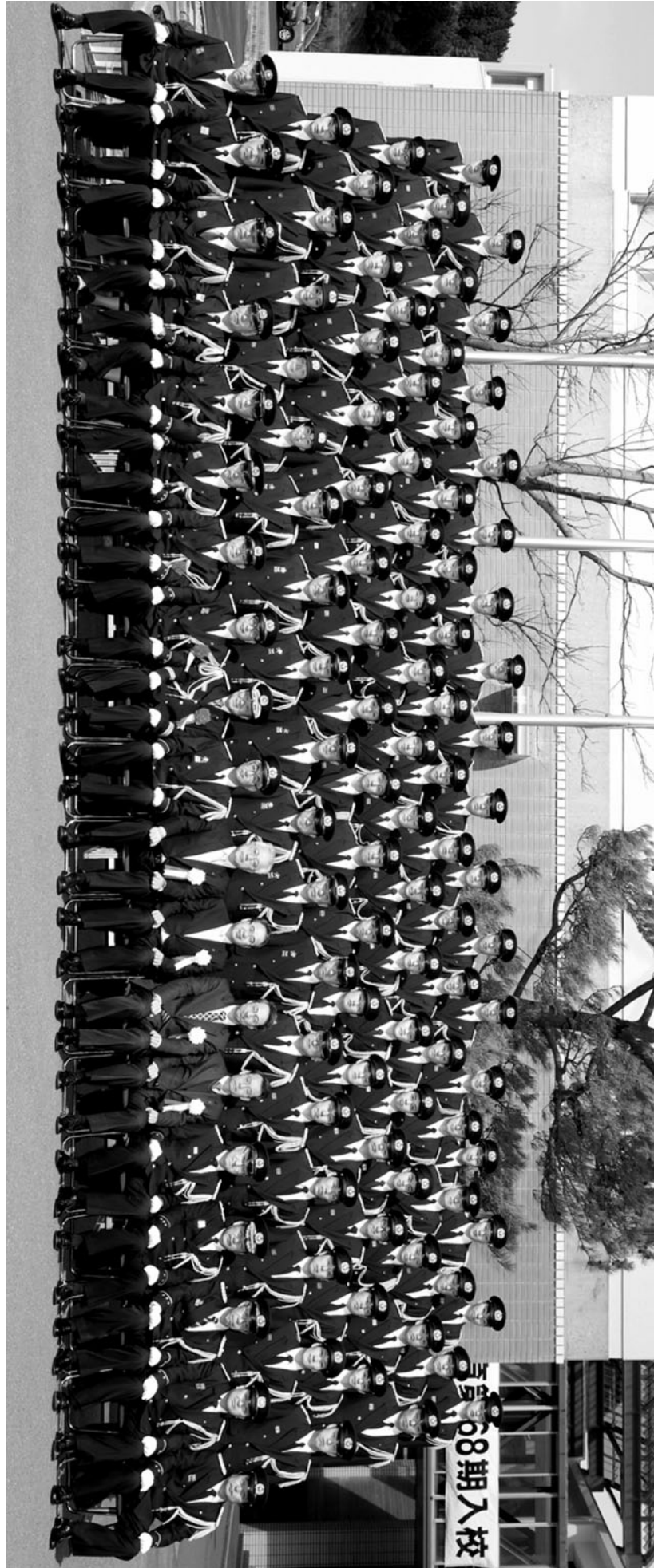
校 長 中 村 基
副 校 長 越 後 屋 光 晴

総務班

主幹・班長 高 橋 一 彦
主 任 石 黒 亨
主 任 伊 東 絵 美
技能主任 篠 田 均
舎 監 大 滝 隆 寿
舎 監 長谷部 寿
防災学習館説明員 高 橋 博
佐 藤 伸 子
田 中 裕 子

教務班

副主幹・班長 後 藤 洋 明
副 主 幹 佐 藤 浩 司
副 主 幹 大 野 光 徳
副 主 幹 武 藤 純 学
主 査 佐 藤 純 人
講 師 大 澤 善 樹
講 師 樋 渡 統 一



秋 田 県 消 防 学 校 平 成 26 年 度 教 育 訓 練 計 画

秋田県消防学校では、消防団員を対象とした教育訓練を行っています。そのうち基礎教育第60期、幹部教育第59期の実施要領を紹介いたしますので、参考にしていただき、多くの団員が受講されることを期待しております。

なお、受講希望者は市町村消防団係にお問い合わせ下さい。

消防団員基礎教育第60期		教育課程	消防団員幹部教育第59期	
入団して概ね3年未満の消防団員に対して、基礎的教育を行う。		目 的	班長以上の階級にある消防団員に対し、幹部として必要な教育訓練を行う。	
団員の階級にある者		対 象 者	班長以上の階級にある者	
平成27年3月7日(土)～8日(日)		教育期間	平成27年2月28日(土)～3月1日(日)	
教科目 (教育内容)	時間数	教科目及 び時間数	教科目 (教育内容)	時間数
訓練礼式(各個訓練、小隊訓練、通常点検要領)	2		講話(職責と心構え)	1
組織制度(消防団の組織制度)	1		組織制度(消防団の概要)	2
ポンプ操法(消防ポンプ操法)	2		防災(防災対策と活動要領)	2
火災防ぎよ・安全管理(火災防ぎよ、安全対策)	2		現場指揮(現場指揮要領)	3
防災(災害対策)	1		安全管理(事故予防対策)	2
救急救助(応急手当、基本結索)	2		事例研究(実務研究課題討議)	1
行事その他(入校式、修了式等)	2		行事その他(入校式、修了式等)	1
計	12		計	12

教 育 訓 練 計 画 (総括表)

教 育 課 程	教 育 実 施 期 間		入 校 対 象 者		
	日数	時 期			
消 防 団 員 職 員 教 育	初 任 教 育	164	H26.4.9～H26.9.19	新たに採用された消防職員	
	専 科 教 育	警 防 科	12	H26.9.29～H26.10.10	警防業務に従事している者又は従事しようとする者で、消防歴3年以上の者
		予 防 査 察 科	12	H26.12.1～H26.12.12	予防業務に従事している者又は従事しようとする者で、消防歴3年以上の者
		火 災 調 査 科	12	H26.10.20～H26.10.31	火災調査業務に従事している者又は従事しようとする者で、消防歴3年以上の者
	救 急 科	救 急 科	52	H27.1.7～H27.2.27	救急業務に従事しようとする者
		救 助 科	29	H26.10.1～H26.10.29	35歳以下の救助業務に耐えうる体力を有している者
	特 殊 災 害 科	9	H26.11.13～H26.11.21	警防及び救助業務に従事している者又は従事しようとする者で、消防士長以上の階級にある者	
	幹 部 教 育	9	H26.7.24～H26.8.1	55歳以下の消防司令以上の階級にある者	
	特 別 教 育	消 防 操 法 指 導 員 講 習	2	H26.5.8～H26.5.9	消防士長以上の階級で、訓練礼式・消防操法を担当する者
		救 急 特 別 講 習	5	H26.12.8～H26.12.12	救急救命士養成所への入所予定者
ビデオ喉頭鏡追加講習		2	H26.11.6～H26.11.7	気管挿管資格者である救急救命士	
救 急 救 命 処 置 拡 大 追 加 講 習		未定	未 定	薬剤投与認定救急救命士	
消 防 団 員 教 育	基 礎 教 育	2	H27.3.7～H27.3.8	団員の階級にある者	
	幹 部 教 育	2	H27.2.28～H27.3.1	班長以上の階級にある者	
	特 別 教 育	女 性 消 防 団 員 教 育	2	H26.10.25～H26.10.26	秋田県消防協会の推薦による女性団員
		日 消 指 導 員 教 育	2	H26.11.29～H26.11.30	団員の教育訓練を担当する者
	現 地 教 育	現 地 教 育	(内容・時間数について、地域の実情を勘案して実施)		市町村長等の推薦による団員
一 日 入 校 教 育		(内容・時間数について、要望を勘案して実施)		市町村長等の推薦による団員	
そ の 他	そ の 他 入 校 教 育	(内容・時間数について、要望を勘案して実施)		各種団体等の要請による	

平成二六年春の叙勲・褒章
第二二回危険業務従事者叙勲

平成二六年春の叙勲・褒章及び第二二回危険業務従事者叙勲の受章者が発表され、消防関係の本県受章者は叙勲二名、危険業務従事者叙勲八名、褒章二名の方が受章されました。誠におめでとうございます。

平成二六年春の叙勲

◆瑞宝双光章(三名)

元南外村消防団 長 今野 恭男

元仙北町消防団 長 佐藤 昇

元羽後町消防団 長 佐藤 壽一

◆瑞宝单光章(一九名)

元増田町消防団 分団長 遠藤 孝一郎

元秋田市消防団 分団長 追留 吉雄

元横手市消防団 分団長 小田嶋 吉郎

元大仙市消防団 副団長 小原 善市

元三種町消防団 副団長 小玉 運市

元能代市連合消防団能代消防団 分団長 小玉 忠勝

元井川町消防団 副団長 小武海 清熙

元男鹿市消防団 副団長 佐々木 善廣

元羽後町消防団 分団長 佐藤 勝太郎

元仙北市消防団 副団長 佐藤 富一

元仙北市角館消防団 副団長 高橋 昭郎

元北秋田市消防団 副団長 中村 信一

元大館市消防団 分団長 鳴海 斌三

元秋田市消防団 副団長 長谷部 宣治

元岩城町消防団 副分団長 原 敬

元横手市消防団 分団長 半田 勝司

元大仙市消防団 副団長 藤田 良次

元美郷町消防団 分団長 藤谷 恭造

元天王町消防団 分団長 藤原 勝雄

第二二回危険業務従事者叙勲

◆瑞宝双光章(六名)

元本荘地区消防事務組合消防本部 消防司令長 油川 金喜

元横手平鹿広域市町村圏組合消防本部 消防司令長 伊藤 勝雄

元秋田市消防本部 消防司令長 佐々木 繁次

元由利本荘市消防本部 消防司令長 鈴木 秋夫

元大館市消防本部 消防監督 樺谷 賢治

元大館市消防本部 消防司令長 成田 啓一

◆瑞宝单光章(二名)

元にかほ市消防本部 消防司令長 佐藤 吉晴

元横手市消防本部 消防司令長 高橋 幸男

平成二六年春の褒章

◆藍綬褒章(二名)

八郎潟町消防団 副団長 齊藤 和雄

八郎潟町消防団 副団長 畠山 敏夫

新消防長紹介



鹿角広域行政
組合消防本部
副団長 米田 均



大館市消防本部
副団長 佐藤 久仁



北秋田市消防本部
副団長 高橋 進



湖東地区行政
一部事務組合消防本部
副団長 菊地 徹



由利本荘市消防本部
副団長 佐々木 助行



大曲仙北広域
市町村圏組合消防本部
副団長 三浦 肇



湯沢雄勝広域
市町村圏組合消防本部
副団長 菅 政美

新消防団長紹介



仙北市消防団
副団長 佐々木 久悦

平成25年度消防互助会見舞金等の贈呈状況

見舞金等の種類	件数(件)	金額(千円)
罹災見舞金		
住家全焼・全壊	2	200
住家半焼・半壊	7	260
非住家又は家財焼失・損壊	1	10
小 計	10	470
弔慰・傷痍見舞金	29	290
結婚祝い金	82	820
合 計	121	1,580
【参考】消防互助会加入者数	18,946人	

秋田県消防協会消防互助会委員名簿

平成26年4月現在

委員長	北 林 義 高	上小阿仁村消防団 団 長
委員	成 田 俊 昭	小 坂 町 消 防 団 団 長
	金 子 忠 夫	三 種 町 消 防 団 団 長
	遠 間 富 和	井 川 町 消 防 団 団 長
	備 後 孫 忠	秋 田 市 消 防 団 副 団 長
	今 野 文 夫	由 利 本 荘 市 消 防 団 副 団 長
	高 橋 正 尚	美 郷 町 消 防 団 団 長
	佐 藤 庫 之 助	横 手 市 雄 物 川 消 防 団 団 長
	佐 々 木 謙 吉	東 成 瀬 村 消 防 団 団 長

任期：平成25年4月1日～平成27年3月31日

秋田県消防協会消防互助会審議委員会は、四月二五日(金)九名の委員全員が出席し、秋田市の「ルポールみずほ」で開催しました。消防互助会は、協会の目的及び事業の円滑な推進に寄与するため、会員相互の共存共栄及び親睦融和を図るとともに、消防士気の高揚を図ることを目的に、罹災見舞金や弔慰・傷痍見舞金、結婚祝い金の贈呈などを行う事業で、平成二三年度から実施しています。

今般の審議委員会は、最初に不在となつている委員長を選出が行われ、委員の互選により上小阿仁村消防団の北林義高団長が選出されました。引き続き、北林委員長が議長となり、平成二五年度消防互助会決算や平成二六年度消防互助会予算などを審議しました。平成二五年度は前年度と比較して一一人加入者が減つた中で、結婚祝い金を中心に、合計で一二一件の実績となりました。

消防互助会審議委員会
一二一件の見舞金・祝い金を贈呈

がんばる！

女性消防団

この度、7名の女性団員が応急手当普及員の資格を無事取得しました！これは普通救命講習の指導を消防本部と共に行うための資格で、大仙市、美郷町、仙北市が合同で男性団員と共に合計24時間の講習を受けました。

全国の消防団員の中にはこの資格を持ち、様々な市民層に対し応急手当の普及啓発に努めている方もいます。そこで、私たちも1人でも多くの市民が心肺蘇生法等の応急手当を習得し実施に移すことができれば、救命事例が確実に増えていくものと思ひ今回挑戦しました。大曲仙北では初の試みでしたが、講師にあたってくださった救命士の方の指導のおかげで無事全員合格することができました。将来女性団員全員がこの資格を持ち活動することを目標としています。これから事業所や学校などにオ邪魔することになると思ひますのでどうぞよろしくお願ひします。

仙北市に女性団員が誕生して5年になります。地域の方により密着した活動をして行きたいと思ひます。

西宮 三春



心肺蘇生法などの
応急手当を習得中

女性団員
募集中！

仙北市総合防災課
☎ 43-1115



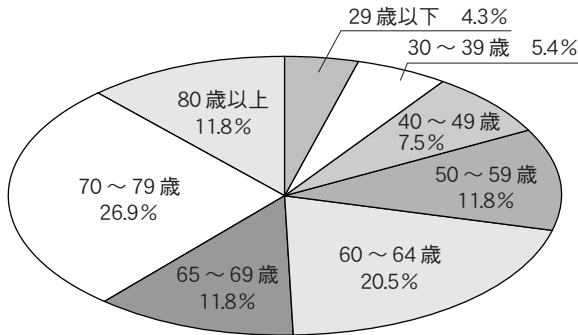
受講した7名の女性団員が応急手当普及員の資格を無事取得！

山岳遭難事故の発生状況

		H22	H23	H24	H25
合 計	件 数	83	68	89	70
	遭難者数	92	74	103	93
	うち死亡	16	11	14	9
登 山	件 数	9	4	7	10
	遭難者数	12	5	7	11
	うち死亡	-	-	2	1
山菜取り	件 数	39	45	57	29
	遭難者数	43	50	63	41
	うち死亡	6	8	4	2
きのこ取り	件 数	19	8	16	15
	遭難者数	21	8	16	18
	うち死亡	3	-	4	-
そ の 他	件 数	16	11	9	16
	遭難者数	16	11	17	23
	うち死亡	7	3	4	6

*「その他」は森林伐採、溪流釣り等の事故

平成 25 年山岳遭難 年代別発生状況



秋田県山岳遭難 防止対策協議会

山菜採りが遭難の四二%を占める

平成二六年度秋田県山岳遭難防止対策協議会(会長・堀井啓一秋田県副知事)総会が四月二一日(月)、秋田県庁第二庁舎で開催され、平成二五年山岳遭難事故発生状況の報告などが行われました。

山岳遭難事故報告によると、発生件数は七〇件、うち山菜採りが二九件で四二%を占め、遭難者数は九三人、うち六五歳以上の高齢者は四七人で五一%となっております。

入山者の皆さんへ

山菜採りに行くときの注意・装備品の注意

- ①一人で山には入らないで、家族(又は知人)に行き先を告げる
- ②自分の体力、体調にあった行動をとる
- ③知らない山には入らない
- ④天気予報・気象情報を確認してから出かける
- ⑤予備の食糧、雨具、着替え、ライター、熊鈴、ラジオ、笛などを持つ
- ⑥携帯電話(電波の届く場所を確認する)
- ⑦服装、所持品は目立つ色にしましょう
 - ・自然界に無い色の物を着用・持参しましょう
 - ・搜索する側から目立つ色は白色
 - ・白いタオルを持参して入山して下さい

入山の注意・登山の注意

- ①声を掛け合い、お互いの居場所を確認して同行者と離れない
- ②方向を見失わないようにする
- ③無理をせず早めに切り上げ、明るいうちに下山する

もし、迷ってしまったら

- ①むやみに歩き回らない
(沢や崖などに転落してしまう場合があります)
- ②雨風を防げる場所で救助を待つ
- ③明るくなったら見通しの良い場所に出て、救助を待つ
- ④搜索のヘリコプターを見つけたら、見通しの良い場所に移動して、目立つ色の着衣、雨具、タオル等を振って自分の居場所を知らせる

消防 半天・帯・団旗 優勝旗・ゼッケン 手拭・タオル・のれん 旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

トーハツ消防ポンプ モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター 消防被服全般 秋田県代理店

株式会社 高 義 商 会

- (営業種目)
- トーハツ小型動力ポンプ
 - モリタ自動車ポンプ
 - ジェットホース
 - 消防被服全般
 - 火災報知器各種
 - 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32 Ⅷ(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 Ⅷ(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 ギ

秋田県横手市寿町1番28号 TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シパウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

支部情報アラカルト

大火の教訓を活かして

能代山本広域市町村圏組合消防本部

能代山本広域市町村圏組合消防本部では、過去の教訓を風化させないため「昭和三十一年三月二〇日能代市大火の日」にあたる、平成二六年三月二〇日に、地域地水利の把握、出場部隊の基本隊形、迅速な情報収集で効率的な消防活動を行うことを目的に、能代市火災予防連合会、自治会、能代警察署の総勢約九〇人が参加し訓練を実施しました。



実設訓練の様子

この訓練は、三月二〇日午後六時頃、能代沖を震源とするマグニチュード七・一震度五強の地震が発生。その直後一般住宅から火の手が上がり、

強風に煽られ隣接する住宅へ次々と延焼拡大したという想定で、消防隊や地域住民による火災防ぎよや安否確認などを実施しました。周囲がはつきりと確認できる昼間と違い、暗闇の中での対応が如何に困難かを改めて実感しました。



実設訓練の様子

また、訓練終了後には地震体験車に乗って、震度七の揺れの大きさ、恐ろしさを体感し、地震災害に対する事前の心構えの大切さを学びました。このような訓練を契機に、地域住民の方々には「自らの地域は自ら守る。」という自覚、そして地域住民の連帯感の大切さを再認識していただき、今後益々の自主防災に対する意識向上に繋がっていくことを期待しております。

〔情報提供〕能代市山本郡支部

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成 26 年		平成 25 年			同期比較	
	4 月	累計	4 月	累計	年計	4 月	累計
建 物	21	89	22	81	204	- 1	8
林 野	29	29	8	8	34	21	21
車 輛	2	13	4	14	39	- 2	- 1
そ の 他	27	30	13	19	72	14	11
合 計	79	161	47	122	349	32	39
死 者 数	1	17	3	13	22	- 2	4
負 傷 者 数	6	36	12	25	66	- 6	11

お詫びと訂正

平成二六年四月一五日発行の「消防秋田」特別研修に参加しての消防団幹部候補中央特別研修の記事の中で、一部誤りがありました。

佐藤佑巨様には大変ご迷惑をおかけし、謹んでお詫び申し上げますとともに、次のように訂正させていただきます。

【正】佐藤 佑巨
【誤】佐藤 祐巨



森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協 立

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651